



「けやき」通信 **「木洩れ日」** (其の117)

2020年5月29日発行

社会福祉法人 九十九会
生活介護事業所「けやき」

〒299-4403 千葉県長生郡睦沢町上市場 693

☎ 0475 (44) 2888

西 希仁

子どもの頃、家の前にゴミ集積所があった。朝、ゴミ収集車がやってくると作業員のオジさんたちが、互いに爽やかに声を掛け合いながら手際よくキレイにしていた。そんな光景をたびたび見ていたせいかな、「将来はゴミ収集の仕事に就きたい」と思っていた。

先日、そんな私の耳に「ある地方都市ではゴミ収集を、朝ではなく『夜間』に行っている」という情報が入ってきた。

それはすでに1960年代には行われていたという。日没から24時までのゴミの「夜間収集」。

当初は、夜中に響く作業員の「オーライ」のかけ声に市民から「うるさい」と苦情が出ることもあったそう。しかし現在は、なんと車の後部に取り付けた集音マイクで作業員が運転手とやり取りする気遣いをしているらしい。それだけではない。戸建て住宅では、ゴミは集積所ではなく「自宅玄関先」に置けば収集してくれるそう。もちろん作業員には「深夜手当」がつく。その手当の総額は、なんと年間約6億円もかかるらしい。それでも市民アンケートでは、夜間収集について「カラスにゴミを荒らされる心配がない」「夜間の防犯防災対策としてもいい」「朝、悪臭がしない」などの声が寄せられ、満足度が「97・3%」（2015年度）だとか。

この話を聞いてなんだか違和感をもった。まず言葉として表現できたことは「カラスに荒らされなくても猫に荒らされるじゃないか」「ゴミが猫に荒らされて散らかっていたら作業員が暗い中、目を凝らして片付けるのか？」だったが、何だかそれだけでは、モヤモヤした気持ちはおさまらず、さらに言葉にしてみた。「ゴミ収集の作業員の生活リズムを昼夜逆転させてまですることなのか?」「夜間収集を行うと暮らしに必要不可欠なゴミ収集という仕事が市民に見えなくなってしまうが、それでも快適さをとるのか」「その快適さ、便利さの陰で、どんな人々がどのように働き、どれだけ費用がどれだけ掛かっているのか?」ということを想像すべきだ!」「年間6億円もあつたら、例えば子どもの貧困対策だって、それこそ今なら新型コロナ対策だってずいぶんいろんなことが出来るぞ!!」…かくして、元「ゴミ収集作業員志望者」だった私の気持ちはどんどんヒートアップしていった。

熱くなった頭が少し冷めてから思った。他人事だとそんなことを簡単に言っている私だが、そもそも、私だって世の中にある、たくさんの快適さ、便利さの恩恵を受けている。その一つ一つに対して「どんな人々がどのように働き、どれだけ費用が掛かっているのか」なんて分かってなどいないではないか…。

しかし、「快適さ・便利さ」が進めば進むほど社会の中で無理が生じる。そしてその「無理」は、知らぬ間に私たちの日常にあふれている。東日本大震災や熊本の震災、昨秋の台風などによる風災害など、

辛い出来事が起きるたびにそのことを思い知らさる。例えば、原発事故で地域に帰れない人や未だ仮設住宅で暮らさざるを得ない人々は、震災が起きるその前にすでにギリギリの生活をしてきたこと。そして、いざ震災が起きて、最低限度の生活を守る「最後の砦」の憲法第 25 条「生存権」がちゃんと機能しないことを知らされてきた。私たちは実は、人生で何かの大きなアクシデントが起きたら、あっという間に日々の暮らしが成り立たなくなるという恐怖に囲まれているのを「知らぬが仏」でいるだけなのだ。

そしてその都度、なんとかしたい…と思ってきたが、結局は「先送り」となっていることばかり。「先送り」というのは時に問題を大きく、そして深刻にさせる。そこへ来ての新型コロナウイルス感染拡大である。今回も、ここまでギリギリの生活をしてきた方々にとっては既に十分に厳しい状況に陥っている。特別臨時給付金ですら住所不定のために貰えない方がいると聞く。この先、感染拡大がおさまらなければ、その影響の広さや深刻さは…と不安は強い。

今回の新型コロナウイルス感染拡大は様々な面で社会の転機になるだろう。社会福祉分野においても既に影響は大きい。例えば、報道によれば高齢者介護のディサービス事業所では経営が成り立たないほどの極めて深刻な影響を受けているところもあると聞く。これまでも経済対策優先で社会福祉予算は削減の政策だったが、この先もその方向性で行く限りは、これまで以上の大きな削減が予想される。それは、「先送り」となっている問題をより一層深刻にさせることにつながる。

しかし、だからと言って「新たな方向性を…」とするのであれば、それは大きな「変化」となる。そして、その変化を実現していくためには大きな覚悟と忍耐がいる。

さて。どのみち大変になるのなら、いっそ希望を持って面白がってみよう。幸い「外出自粛」で休日に家にいる時間が少しは増えた。新型コロナの先の未来や、自分が目指したい「幸せ」を少し思い描いてみるぐらいの時間をつくってみよう。幸せってなんだっけ？そのために最低限必要なものって？と考えてみるのはどうだろう。まずは、「先送り」から「ちょっと向き合ってみる」へ。まずは新型コロナ感染下での暮らしの在り方を面白がる。そして、今後の日常の暮らしを面白がる。それはきっと、新たな「非常時」への備えにもなるはずだ。

6月・7月の予定

6月19日（金）：避難訓練

15日（月）～19日（金）：健康チェック週間

7月13日（月）～17日（金）：健康チェック週間

23日（木）：海の日（休業日）

24日（金）：スポーツの日（休業日）

* 新型コロナウイルス感染予防のため、当面は外出行事、外部講師による理学療法や摂食指導などは控えさせていただきます。

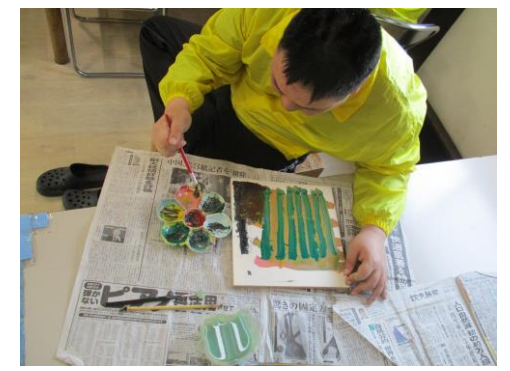




「けやき」ミニ・ギャラリー ～その1～

① キャンバス創作

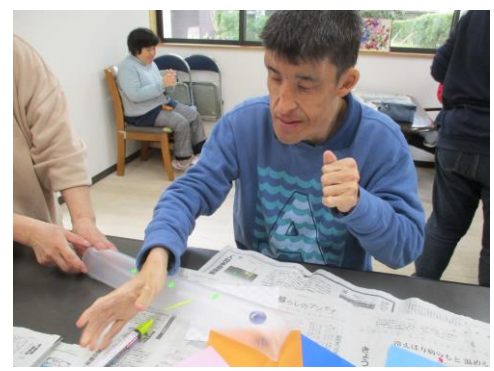
昨年度から継続して取り組んでいる主にポスターカラーを使用した利用者さんの作品づくりが今年度も始まっています。キャンバスは 30cm角程度の木製ボードを用意しました。皆さん、色を自分のペースで塗り重ねて、それぞれに風合いが出てきています。約1年通して続けてきていますが、皆さんのキャンバスに向かう姿勢や筆を握る様子に変化が見られています。作品の仕上がりが楽しみです。
(今野 博之)



～制作中の作品です～

② こいのぼり創作

今年度、初めての試みとして“こいのぼり”の作成を行いました。傘入れのビニール袋をふくらませて、シール、折り紙(ちぎり)、ポスターカラーなどを使用し、利用者さんがそれぞれ選び作成しました。全体をシールで統一した利用者さん、ポスターカラーで色々な色を使用して筆の使い方などで工夫している利用者さんなど様々な形の“こいのぼり”が出来上がりました。本来ならこいのぼりを見にドライブというのが例年でしたが、今年はちょっと違ったこいのぼりが見られて良かったと思います。
(丸 祐子)



～ 今年度は下記のメンバー構成になります。よろしくお願い致します ～

施設長：西 希仁

スタッフ：浅野真由美（主任）

藤平久美子（光グループリーダー）

今野博之（風グループリーダー） 山田友美

※丸山美津江 ※山本陽一 ※加藤優子 ※印は非常勤職員

看護師：丸 祐子

事務；飯島 馨（一松工房兼任）

嘱託医；外房こどもクリニック



新スタッフの自己紹介

～今年度より新しい職員が2名「けやき」に加わりました！～



藤平 久美子（ふじひら くみこ）

ときわぎ工舎より異動してきました藤平です。成人支援として長い間パン作りをしており、販売会や店舗でけやきの皆さんとお会いする機会が沢山ありました。改めて一緒に活動させて頂き、その表情を近くでみると発見や気づきがあります。今は私自身緊張と戸惑いの中におりますが、皆さんが自分の想いを伝え、出来ることを維持しながらけやきで安心して過ごせるように関りを深めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



山田 友美（やまだ ともみ）

この度、生活介護事業所けやきに所属させていただくことになりました山田友美と申します。前職では10年以上理容業界で働いていました。なので福祉業界は私にとって何もかもが初めてで不安も大きいです。B型の蠍座ということもあり、何事も諦めずに前向きに物事を考え、1日でも早く仕事を覚えてみなさんの力になれるように努めていきたいと思っております。仕事に全力で取り組みますので、ご指導よろしくお願い致します。



編集後記 新年度がスタートして早一か月。今年度は例年とは全く違ったスタートを切りました。新型コロナウイルスの影響で様々なことを自粛せざるを得なくなり、誰もが大きな不安を抱え、緊張感のある生活を送ることとなりました。そんな中、変わらずに通って来てくれる利用者さんの笑顔や言葉に元気をもらい、また励まされています。緊急事態宣言が解除となりましたが、早く“普通の生活”に戻れることを願いつつ、油断せずに出来る事をしっかりと行っていきたいと思っております。今年度もよろしくお願い致します。 (浅野)